

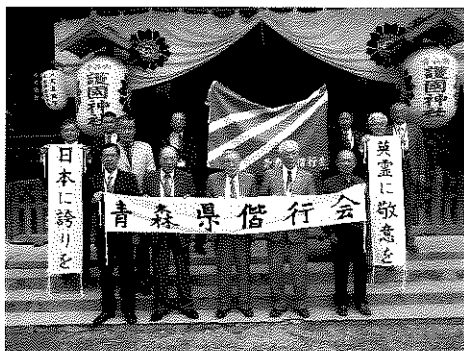
青森県偕行会総会と正式参拝

青森県偕行会は、爽りの秋を迎えた9月22日、弘前市にある青森県護國神社において、平成30年度の総会を開催した。

長年旧軍関係者の多かった青森市で行っていたが、28年の総会から英霊顕彰に相応しい護國神社で開催すべしとの決定により今年も同神社での開催となった。

今回も旧軍関係者は伊藤会長のみとなり、元幹部自衛官は、東北方面隊の創隊記念日と重なり、隊友会及び家族会の役員会員が、仙台に出掛けたことから11名に減少し12名の出席となった。

総会は、午前10時に同神社社務所大広間床の間の「国旗」に正対し国歌斉唱で始まった。



続いて、この1年間の当会会員物故者、57期三上 十司様、60期藤田 孟様、元幹部自衛官佐々木 武彦様に対し黙祷を捧げた。

伊藤哲也会長仙幼49が挨拶で、旧軍関係者が少なくなり、9名となったが、元自衛隊幹部の方々が入会してくれ、今年も総会が開催出来るのは悦ばしい。旧軍関係者は最も若い小生が5年から6年後には参加は無理でしょうから、今後のことを頼みますと語った。

次いで、事務局長を議長として、議案の審議が始まった。先ず、昨年度議決事項の確認がなされた。

引き続き、昨年度の事業報告がなされた。昨年度は「弘前市での合同新年交歓会」「弘前公園での花見」及び「旧弘前偕行社環境整備支援委員会への寄付金贈呈」の主要事業について報告された。特に、新年交歓会では県家族会及び県郷友会の会長は偕行会会員であり、弘前市の支部長等は全員偕行会会員であること、花見では地元弘前駐屯地司令を迎えて21名で護國神社内苑で盛大に行い、昨年「偕行7月号付録花だより」に掲載されたこと、寄付金贈呈では、志摩会長及び若木事務局長が寄付金を贈呈する様子が地元新聞に大きく報道されたことが報告された。

続いて「元幹部自衛官の入会促進について」の審議がなされた。特に、偕行社

が示す「入会促進協力特別委員必携平成29年度版(案)」を深く認識して、身近な知人に入会を直接働き掛けるべく、所謂「一本釣り」が効果的であるなどの意見が交わされた。

4番目の議案として「旧弘前偕行社環境整備事業に関する協力」について、志摩会長及び若木事務局長の来青に伴う、新青森駅での出迎え、第9師団長表敬、寄付金贈呈などへの伊藤会長の協力を紹介した。弘前市長表敬が叶わず市担当者から「偕行社は市長よりも師団長を優先するのですね!」と皮肉を言われた挿話も紹介され、会員から笑いもあった。旧弘前偕行社が「遼止園(とうしえん)〔大正天皇が命名〕」と前庭と共に復元されたならば、極めて貴重な旧陸軍の遺産として、今後百年先まで存続継承され、偕行会行事での利用はじめ全国からの偕行社会員の見学案内に、偕行会としても最善を尽くすべく話し合われた。

5番目に「今後の事業計画(案)」が審議された。

総会終了後、同神社拝殿前で「青森県偕行会旗」「青森県偕行会」の横断幕、偕行社理念の「英霊に敬意を」及び「日本に誇りを」の懸垂幕を背景に全員で写真撮影をした。

その後、拝殿において全員により正式参拝を行い、29、182柱(昨年より1柱増)の御霊を慰霊顕彰した。

引き続き直会となった。会場は総会を行った社務所大広間で、同神社「創建100年記念事業」により改築が行われた新装の広間であった。

直会は会長の献杯の発声で始まり、5ヵ月振りの交流の輪を広げた。5時間に及んだ総会、正式参拝、直会の最後には「海ゆかば」を高らかに歌い、引き続き車で完成間近の旧弘前偕行社を見学した。見学に際しては文化庁職員の説明があり、説明に聞き入った。見学後は来春の青森県護國神社での例大祭と引き続き弘前公園観桜会での再会を期して旧弘前偕行社を後にした。

事務局長 稲村孝司陸自75